



年度末になり、慌ただしくなります。子どもたちも環境の変化に敏感になり、緊張したりして心身の不調として表すこともあります。そのような時も慌てることなく、子どもの気持ちに添いながらいつもの生活リズムを保つことがコツです。どうぞ暖かく見守ってください。

院長より

「米国のBright Futures」



米国では、乳幼児・小児・若年者の健康ケアに関する包括的なガイドラインBright Futuresが策定されています。このガイドラインは各小児関連団体と共に米国小児科学会によって作成されたものです。

生後から21歳までの小児とその家族に対し定期的な外来診療で、疾患の検出、疾病予防、健康増進、事前指導が行われています。子どもの健康増進や事前指導だけでなく、家族の健康全般にも関心がむけられ、地域社会サービスを受ける機会にもなっています。

わが国にも母子保健事業で定められた乳幼児健康診査という仕組みはありますが3歳児までであり、就学以降は学校保健での集団健診となっているところが異なっています。

日本でも子どもたち一人一人の成長を成人まで見守るシステムがほしいと思っています。



訪問看護ステーション

以前お伝えした重症心身障害児の研修での研究発表が終了しました。

私たちは、就学前のお母さまたちにインタビューをし、そこから母親の思いを知るという事がテーマでした。母親は、突として障害児の母親になり、不安やショック、罪悪感を抱えたまま、時間をかけながら肯定的気づきを見出していました。就学前になってくると、柔軟さ他人への思いなどが出来て来ており、社会への発信力なども備わり、成長や余裕につながっていました。

文章だけでは伝わりにくいかもしれませんが、生の言葉をたくさん聞く事ができ、お母さま達の思いを知る事ができたとても学びの多い研究になったと思います。この研究を次回は学会発表へ向けたいと思っています！

(文責 梅田可愛)

最近の流行っている病気

インフルエンザが流行中で、現在A型もB型も同時に流行しています。嘔吐・下痢の急性胃腸炎、咳がひどいマイコプラズマ感染症もあります。結膜炎をおこすアデノウイルスもみられています。

感染症として、水痘、突発性発疹、溶連菌感染症があります。

病児保育室便り

病児保育に来ているお子さんは、普段は保育園や幼稚園または小学校に通っているお子さん達です。集団生活での行動が習慣となっているので、病児保育室でもその行動が見られます。

たとえば、食事の時には食器を片づけるお子さん、椅子を机にしまうお子さん、椅子を元にあった場所に戻すお子さんがいます。お昼寝の時には、声をかけても布団から出なかったお子さんが、電気をつけたとたん起きて着替えを始めていました。

毎日の習慣はお子さん達にとって大事なのだなって感じました。

(文責 千葉美香)

今月の代診と休診

1日(水)	午後診療	宗像先生
2日(木)	午後診療	宗像先生
8日(水)	午前・午後診療	宗像先生
9日(木)	早朝診療 午後診療	西堀先生 宗像先生
14日(火)	午後診療	宗像先生
17日(金)	午前診療	宗像先生
22日(水)	午後診療	宗像先生
23日(木)	午後診療	宗像先生
24日(金)	午後診療	宗像先生
30日(木)	早朝診療 午後診療	西堀先生 宗像先生



木曜日午前診療は西堀先生です。